



TITLE:

静脩 Vol. 33 No. 1 (1996.10) [全文]

AUTHOR(S):

CITATION:

静脩 Vol. 33 No. 1 (1996.10) [全文]. 静脩 1996, 33(1)

ISSUE DATE:

1996-10

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/66021>

RIGHT:



転換期を迎えた大学図書館

京 都 大 学 総 長 井 村 裕 夫

数年前オックスフォード大学を訪問したとき、有名なボードリアン図書館を見せて頂いた。古い伝統と蔵書数の多さもさることながら、組織がしっかりしているのに感心した。例えば、私の案内をしてくれた日本人の司書は、日本・中国の専門とのことであった。日本の大学の図書館で、外国人の司書がいるところがどのくらいあるであろうかと、ふと考えたことを憶えている。

この図書館は、古い建物と蔵書をそのまま残しているのも一つの特徴である。それはまさに「学の殿堂」と呼ぶに相応しい雰囲気をもっており、オックスフォード大学の歴史が感じられた。鎖でつながれた書物も残っていたが、かつて図書がいかに貴重であったかを示すものとして興味があった。井上靖の「天平の甕」に出てくる、一生を写本で過ごした僧侶のことを思い出した。この鎖は、かつて書物が命と同じく重いものであったことを私達に教えてくれるように思えた。

大学の図書館の難しさは、本館のほかに各部局にどのように分館あるいは分室を配置し、その間をどのように連絡をとるかということである。オックスフォード大学でも、各コレ

ッジや研究所にも図書館がある。例えば、私が訪問したマートン・コレッジにも図書室があり、かつてこの学長を勤めた血液循環の発見者、ハーヴェイの使っ



た部屋も保存されていた。京都大学にも現在中央図書館のほかに、およそ60の大小様々の図書館ないし図書室が存在すると考えられている。講座単位のものまで含めると、更に多いかもしれない。

研究者にとってはできるだけ身近なところ

に図書室があることが望ましい。従って本館のみでなく分館も十分充実させることが理想であることは言うまでもない。しかし、図書も雑誌も年々発行数が増加し、値上がりも決して軽視できない。しかも図書購入の予算は限られているし、人員にも制約がある。その中で、研究者や学生のニーズに応えられるように、どのように図書を配備するか、そしてその間をどのように結ぶかが大きい課題である。図書の重複をできるだけ避け、購入したものを有効に利用しないかぎり、大学の図書館機能の維持は大変難しくなるであろう。

そのためには電子図書館的機能が不可欠となってくる。電子図書館とは、「電子的情報資料を収集・作成・整理・保存し、ネットワークを介して提供するとともに、外部の情報資源へのアクセスを可能とする機能をもつもの」を言う。この電子図書館機能が整備されれば、利用者は図書館に行くことなく、的確、迅速に、そして時間の制約を受けることなくサービスを受けることが可能となる。そうすれば各部局で図書や雑誌を購入する必要はほとんどなくなり、大変効率がよくなる。幸いにして学内LANは整備されており、各部局の端末も増加している。電子図書館へのインフラストラクチャーは、かなり整ってきていると見てよいであろう。

文部省学術審議会は、「大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について」という建議を文部大臣に行った(平成8年7月)。これによって大学の電子図書館化は加速されるであろう。もちろん電子化を推進するため

には解決しなければならない問題がかなり多い。例えば、目録情報の遡及入力、資料電子化の効率的・段階的な実施、施設・設備の整備、職員の研修の充実などである。また著作権も大変難しい問題で、高い使用料を払う必要があると、折角電子化を行ってもあまり利用されない結果になってしまう。この点慎重な検討と事前の協議が必要であろう。

大学図書館の電子化は、現在奈良先端科学技術大学院大学でのみ行われているが、学術審議会の建議によって急速に広まって行くものと考えられる。従ってここ数年の間に、図書館の機能が大きく変化する可能性は極めて大きい。研究者は図書館まで足を運ばなくても、コンピュータのキーボードを叩くだけで、たちどころに必要な文献を読むことができるようになるであろう。学術雑誌は電子化され、姿を消してしまうかも知れない。更に極端な言い方をすれば、図書館の閲覧室も不要となるかも知れない。

しかし、私のような古い人間は、現在の図書館の形態と機能も是非残してほしいと思う。多忙な教育・研究の合い間を縫って、図書館の高い天井の下で、新着の雑誌や新刊書に目を通すのは、安らぎと、そして知的亢奮を同時に味わうことのできる至福の時である。オックスフォード大学の図書館のように、長い学問の伝統に充ちた施設であれば、更に素晴らしいであろう。かつて先人が生命をかけて筆写し、あるいは外国から持ち返った書物は、やはり学問の原点である。それに直接触れることのできる空間が是非欲しいと思う。

GeoRefのネットワーク利用について

前 理 学 部 図 書 掛 長 慈 道 佐 代 子

(現在：附属図書館参考調査掛長)

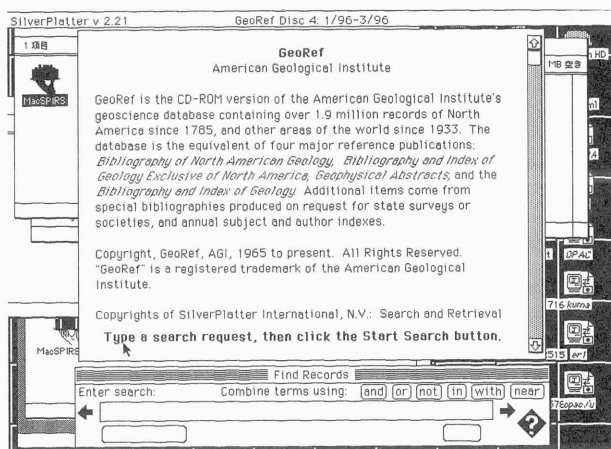
1. はじめに

このたび、GeoRefを学内3部局(理学部、総合人間学部、防災研究所)で分担購入し、

附属図書館のCD-ROMサーバ機により、全学でネットワーク利用出来るようになった。皆様に利用していただけるようになったのは、5月半ばからである。

GeoRefとは、アメリカ地質学研究所(American Geological Institute) が編集する地質学・地球物理学関係のデータベースのタイトルである。STN Internationalで提供されているChemical Abstractsのデータが1962年以降のものについて電算機で検索出来ることと比べると、この分野の文献の遡及性は高く、北米資料は1785年から、全世界の資料は1933年からそれぞれ現在まで収録されている。防災研究所発行の「防災研究所年報」の掲載論文(日本語)も、データ作成に必要な部分を翻訳して収録しており、阪神大震災関係の文献も多く含まれている。

図. 検索初期画面



このソフトを学内関係部局で分担して購入し、維持・管理を附属図書館にお願いをする初めてのケースになるので、これまでの経緯を若干報告しておきたい。

2. 経過

発端となったのは昨年5月、防災研究所福岡助教授から附属図書館に地質学および地球物理学関係のデータベースについての質問が寄せられたことである。業者に問い合わせるとたまたま手元にGeoRef(CD-ROM)の見本があるとのことで、その見本を附属図書館に届けてもらった。附属図書館では防災研究所へ出かけてデモンストレーションを行い、また理学部は見本を借用して、関係者に閲覧いただいた。いずれも好評で、特に米国留学中に利用されていたという山路助教授(図書委員)は購入を強く希望された。同助教授自身、

学内の研究者に電子メールを送ったり、あるいは直接声をかけられたりして分担協力者を探された。理学部中央図書室でも関連する部局図書室へ資料を送って分担購入への参加を呼びかけた。「導入に乗り気であるが、経費を負担してまでは…」という返答もあった。

GeoRefは、1995年5月から実施されているMEDLINEのネットワーク利用と同じ検索ソフト(SilverPlatter社製)であるので、附属図書館にMEDLINEと同様に扱っていただけないかとお願いしたところ、「ディスクに空きがあるので、部局でソフトを用意していただけたら、維持・管理は当方で引き受けましょう」という返事をいただいた。山路助教授に早速連絡すると、「学内の関係部局と経費の分担の話し合いが出来なかった場合でも自分達のグループで購入するので、附属図書館に維持・管理をお願い出来ればありがたい。その場合でも全学にオープンにしてもらって結構ですし、院生にも使ってもらっても結構です」とのことだった。

理学部で、その経費の扱いについて2回に亘り図書委員会で検討したところ、次のような意見が出された。

- ①GeoRefの購入経費はさしあたって利用するところで負担してもらう。
- ②使うところが負担をするというのもよいが、長い目でみてお互い様であり、資料の購入の継続性からいって、小さいところに大きな負担がかからないように、理学部共通で部分的にでももてないだろうか。
- ③インフラの整備に相当することと思われ、大学単位で要求していくのが望ましい。従って、附属図書館から大学当局に予算要求をしてほしい。
- ④今後、この種の資料は増えていくものと思われるので、理学部として原則をはっきりさせていく必要がある。

以上検討の結果、今回の取扱いは「このような利用の形態は初めてであり、サンプル的に利用者に経費の負担をしていただく」ことになった。

3. アンケート

一方、GeoRefの取扱いについて理学部各教室の図書委員会で検討していただくために、「CD-ROM資料の取扱いと経費について」のアンケート調査を行った。主な意見を紹介すると、次のとおりである。

[取扱いについて]

- ①他教室や他学部からアクセスの可能性があるデータを教室や研究室で管理するのは負担が大きすぎる。学部図書室や附属図書館で他の多くのデータベースと同様一括管理の方が効率が良い。
- ②今後、こういった資料が増加すると予想される。理学部として取扱いの原則を作る必要がある。インフラ整備とも関係した問題であるので、当面附属図書館から大学に予算要求してもらうようお願いする。管理、折衝などは少なくとも教室図書室レベルで扱う問題ではないようだ。購入の問題も含めて附属図書館レベルで行うのが良いのではないだろうか。いずれの資料ともいくつかの部局の研究者にまたがるはずだからである。
- ③CD-ROMも本・雑誌と同様に扱う。内容の公共性が高いならば、学部ないし附属図書館が購入し、ある分野に限られたものならば各研究グループが単独／共同購入する。
- ④京大の組織力を活かすには、より上部の組織に購入管理等を委ねるのが望ましい。

[経費について]

- ①利用者負担の場合、負担額の調整に手間どることが予想されるが、ある程度汎用性があるソフトなら学部単位で出してもよい。
- ②図書などのハード資料と同様な扱いで、基本的には利用者（教室）が負担すべきである。非常に広範囲に利用されるものは、特別経費からまとめて出すことも考慮すべきである。
- ③なんでも学部経費というのもおかしいが、なんでも教室や研究グループというのもまたおかしい。

4. 購入手続き

3部局で経費を分担しようという話が漸くまとまった。次は校費の確保である。他の2部局の事情は知らないが我が理学部では利用者負担ということになったので、関係者はやりくりが大変だったのではないと思われる。校費の目処がついたので、部局内担当掛へ取得の手続きのお願いにいった。同掛からは次の点を指摘された。

- ①契約手続部局については、部局等から申

し入れのあるものは部局で行うこと（「CD-ROMサーバーシステムサービスにおける部局等からの提供ソフトウェアにかかる受入要項」平成7年12月18日附属図書館商議会決定）になっている。しかし、経費の分担をすることは理解できるが、契約手続は登録するシステムを持ち、その物品の維持・管理の責任を持つ図書館が行うべきではないか、契約の条件を知らずに維持・管理することは無理ではないか。

- ②3部局での分担の比率の根拠を示すこと

- ③同時アクセス台数の根拠を示すこと（4台希望している）

- ④年間4回発行されるので更新時に古いCD資料を返送することになるが、その郵送料はどの部局が負担するのか

- ⑤防災研究所は附置研究所であるため研究所校費になる。契約部局の持つ国立学校校費と異なるため、支出について本部と相談が必要である。

これに対して、

- ①については、

担当掛で疑問を持ち経理部と協議しているが、すでに商議会で「契約手続は申し入れ部局」と決定していることであり、今後契約担当者としての意見を述べたいが、さし当たって契約伺を図書館に合議するなど応急的な対策を考えたいとしている。

- ②については、

山路助教授が提示されている案をそのまま採用した。それは、利用される参加講座・部門数に比例したもので、理学部：総合人間学部：防災研究所＝6：2：3であった。この通りを返答した。

- ③については、

最小経費は2台同時アクセスということだったが、2台から4台までは同じ料金だからということで4台に改めた。2台とした理由はネットワーク利用が出来る最小台数だからである。このとおりを返答した。

- ④については、

業者に手渡しで返せばよいことがわかった。

- ⑤については、

担当掛におまかせし、何とかスムーズに事が運ぶように願わざるを得なかった。

分担購入を呼びかける場合、当然のことながら参加部局数が多いほど有難い。特に学部と関連する研究所との研究や教育は、相互の協力のもとに運営されている。資料の分担購入・共同利用はこれからもありうる。特にネ

ットワーク利用が進めば、遠隔地の参加にも不便はない。経費の分担処理等の経理上の処理に多少の繁雑さが伴うかと思われるが、学内で学部・研究所を問わず相互に分担購入・共同利用が進められるようになれば、一層経費の効率的な活用が図られるのではないかと思う。

なお、取りまとめは発案した理学部で担当した。連絡事項等は山路助教授に多くをしてもらうことになったが、3部局の窓口はしっかりと決めていただけており、図書室側から電子メールを入れるとまもなく返答が電話であるなど、不便は感じなかった。

5. まとめ

研究者の話によると、「現代の研究は綿密な文献調査から始まるが、星の数ほどある学術雑誌すべてに目を通し、関連する論文を探すのは極めて困難である。そのような状況から、各種学問領域毎に文献データベースが整備され、さらにCD-ROM化されて提供され始めている。欧米の大学では図書館に学部生も利用出来るシステムが普及しており、本学で

も今後こうした設備の充実が求められ、大いに期待したい」とのことである。

今回、見本の到着から利用にいたるまで実に1年かかった。その間購入を希望された山路助教授が電子メールを使ったり直接話をされたりして、色々な対応をねばり強くしてくださったこと、メジャーとは言い難い資料の受け入れを、附属図書館が快諾していただいたことが実現に大きな力となった。附属図書館では大学全体で利用する汎用性の高い資料を備え付けることが望ましい、という意見がある。全くそのとおりで、相互補完の意味から部局側では、限られた専門分野のCD-ROMを学内LANで提供する、といった役割分担が果たせればよいのだが、いかんせん現段階では力量がない。今後新しいメディアの資料を学内でどういう分担にして提供していけばよいか、まだまだ見えていないことが多い。この種の資料が増え、部局において取扱いに慣れた人が多くなれば、附属図書館は大学全体をカバーするものを、部局は専門をカバーするものというふうな、相互分担の方向が望まれるのではないか。

アメリカの大学図書館訪問記：I MIT（マサチューセッツ工科大学）

附属図書館専門員 片山 淳

1. はじめに

平成8年3月16日から23日までの8日間、アメリカ研修旅行に参加する機会に恵まれ、多少会話に不安を覚えながらも、ボストンにあるMIT（マサチューセッツ工科大学）とロサンジェルスUCLA（カリフォルニア大学ロサンジェルス校）の図書館を訪れることができましたので、そこでの見学で得た図書館関連の話を紹介したいと思います。なお、今回の研修旅行は、学術振興会の援助によるもので、京都大学の5名のメンバーで構成された一団でした。このような機会を与えてくださった関係者の方々に、紙面をお借りしてお礼申し

ます。また、同行された4人の方々にも、感謝いたします。

なお、以下の文章は、文末に記した収集できた資料群から抽出してまとめたものです。

2. マサチューセッツ工科大学図書館

2-1. ATHENAミニコース


まず、目についたのは、ATHENAと呼ばれているMITの情報環境を指すネットワークシステムです。梟（ギリシャ神話で知恵の神アテナ女神のシンボル）のマークの入った、

”Information Literacy”を高めるためのすべての構成員を対象にした情報処理教育の月間スケジュールとコースの概要を紹介した資料がありました。(図1)

図1

All MIT Students, Staff, & Faculty invited

Spring Term 1996 Minicourse Schedule



Athena Minicourses

Schedule and Index
Spring Term 1996

New This Term:
HTML – learn to make your own WWW pages
FrameMaker – now in two parts: **Frame** (Intro) & **Frame Thesis**

	Mon	Tue	Wed	Thu
12 noon	12 Feb	Info Res	13 Feb	HTML
7 p.m.		Info Res	14 Feb	Frame
8 p.m.		HTML	15 Feb	Fr. Thesis
		HTML	16 Feb	Frame
12 noon	19 Feb	Holiday *	20 Feb	MSO
7 p.m.		✓ No Classes	21 Feb	MSO
8 p.m.		President's B'day	22 Feb	Matlab
			23 Feb	Maple
12 noon	26 Feb	Intro	27 Feb	Basic WP
7 p.m.		Intro	28 Feb	Working
8 p.m.		Basic WP	29 Feb	Working
			30 Feb	EZ
12 noon	4 Mar	Ser. Emacs	5 Mar	Dotfiles
7 p.m.		Ser. Emacs	6 Mar	Latex
8 p.m.		Dotfiles	7 Mar	L. Thesis
			8 Mar	Latex
12 noon	11 Mar	HTML	12 Mar	Info Res
7 p.m.		Info Res	13 Mar	Info Res
8 p.m.		HTML	14 Mar	Intro
			15 Mar	Basic WP
12 noon	18 Mar	Working	19 Mar	EZ
7 p.m.		Working	20 Mar	Frame
8 p.m.		EZ	21 Mar	Frame Thesis
			22 Mar	Frame Thesis

All minicourses are taught in Room 3-343.
 Minicourses are one hour each.

FOR COURSE DESCRIPTIONS:
 • See "Athena Minicourse Descriptions" on the back of this flyer, or
 • use Dash: `Help > Help on Athena > Athena Minicourses > Minicourse Descriptions`, or
 • see our Web page: <http://web.mit.edu/minidev/www/>

HOW TO REGISTER FOR A MINICOURSE: You Can't! They're free --
No Pre-registration Needed... JUST SHOW UP FOR THE CLASS.

Athena is a registered trademark of Board of the Massachusetts Institute of Technology

I/S Athena Training Group

All Classes in Room 3-343

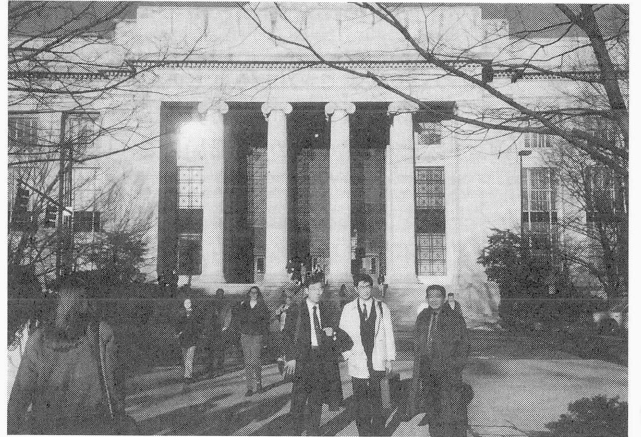
基礎コースとして、Intro：アカウントの取り方、ログイン、Windowsの使い方、メッセージの送り方、Help機能、ドキュメントの見つけ方などを内容とする入門コースから始まり、基礎的文書の作り方、Latex、FrameMaker、MSO、Matlab、Xess、Mapleなどのソフトウェアの使用法、HTML文書の作成方法、ネットワーク上の情報源についての解説等がスケジュールされていました。

MITnetと呼ばれる本学でいうKUINSにあたるキャンパスLANが敷設されており、このネットワークにキャンパス内にある数千台のワークステーションが接続し、インターネットを介して世界のコンピュータにアクセスできるとのことでした。各ワークステーションでは、前述したATHENAのネットワークサービスが受けられるように設定されているようでした。

対応してくださった方が、京都大学でいう工学研究科の副学（科）長であったこともあり、この一時間の実習を行っている部屋のすぐそばを通りました。ATHENAルームと呼ばれているようで、建物の1階中央部の通路付近にあり、奥の階上に工学関係の図書館である”Baker Engineering Library”があり、入り口付近の大ホール横の2階に建築・都市計画関係の”Rotch Library”、3階に”Rotch Library Visual Collection”がありました。そして、これらの図書館に行く時に通る建物

の玄関は、先のアテナに関連するように大理石で作られたギリシャ風の建築様式でした。

写真1 MIT工学研究科正面入口



2-2. 図書館システムと図書館群(図2)

図書館システムは、ほぼキャンパスの中央に位置するHayden Memorial Libraryを中央図書館として、Baker Engineering、Science(科学)、Dewey(社会科学)、Rotch、Humanities(人文科学)という五つの図書館、より狭い分野に限定されたAeronautics & astronautics：航空・宇宙工学、Music：音楽、Earth & Planetary Sciences：地球・惑星科学、Health sciences：身体学、Visual materials:視聴覚資料の五つの支部図書館(分館)、二つの保存図書館(文書類・特殊コレクション、RSCと呼ばれる1963年以前の稀有資料)から構成されています。

保存図書館は、中央図書館内の北側に備え付けられたコレクションとなっていますし、Science、Humanities、Music、Health Sciencesの四つの図書館も中央図書館内にあります。

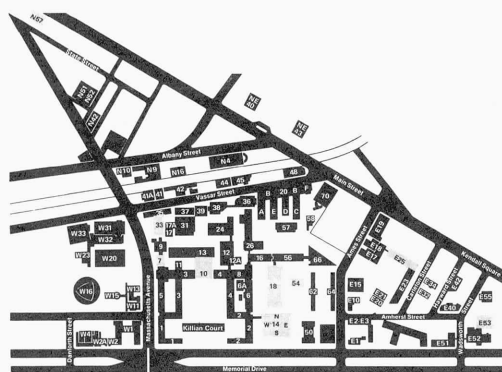
所蔵資料の規模は、図書資料約220万冊、カレント雑誌の購読タイトル数21,000で、マイクロ資料、地図、スライド、楽譜、音響資料、映像資料、ビデオテープなども収集されています。

2-3. 図書館サービス

10カ所の図書館・コレクションのサービス時間は、必ずしも一定ではなく、Libraryと呼ばれるもののうち、Health Sciencesの

Shering-Plough Library と、Collection とか Service(s) という語が使われているもの以外

図 2 The MIT Libraries



	Telephone	Location
Administrative Offices	(617) 253-5651	14S-216
Aeronautics and Astronautics Library	253-5665	33-316
Barker Engineering Library	253-5663	10-500
Computerized Literature Search Service (CLSS)	253-7746	14S-M48
Dewey Library (Management and social sciences)	253-5677	E53-100
Document Services	253-5668	14-0551
Hayden Memorial Library See Humanities and Science Libraries below.	160 Memorial Drive	14S
Humanities Library (Humanities and selected social sciences)	253-5683	14S-200
Institute Archives and Special Collections	253-5136	14N-118
Lindgren Library (Earth, atmospheric, and planetary sciences)	253-5679	54-200
Music Library	253-5689	14E-109
Reserve Book Room	253-5675	14N-132
RetroSpective Collection (RSC) 1 State Street. Call ahead.	253-7040	N57-200
Rotch Library (Architecture and urban planning)	258-5599	7-238
Rotch Library Visual Collections	253-7098	7-304
Schering-Plough Library	253-6366	E25-131
Science Library	253-5685	14S-100

July, 1995

の8つの図書館、および「指定図書」と翻訳されるリザーブ図書室の9カ所が、土曜日は午後、日曜日は午前開館しています。時間は、月～木は午後10～11時までのところが多く、金～土は午後6～7時まで、日曜日は午前10～12時までとなっています。(図3参照)。

開館時間が気になったのは、訪ねたいと思っていた公共図書館(ボストン、ニューヨーク)がいずれも日曜日が休みだったからです。

図書館システムで提供されているサービスは、レファレンスおよび情報支援サービス、図書館間貸出、コンピュータを使った文献検索、文献複写、他地域の図書館へのアクセス、

図 3

MIT LIBRARIES FALL AND SPRING TERM HOURS

September 6 - December 22, 1995 and February 6 - May 24, 1996

Term Hours on the web <http://nimrod.mit.edu/common/termhours.html>

Administrative Offices	14S-216 253-5651	Lindgren Library	54-200 253-5679
Mon-Fri 9-5		Mon-Thu 9-9	
Sat-Sun closed		Fri 9-7	
		Sat 11-6	
		Sun 1-10	
Aeronautics and Astronautics Library	33-316 253-5665	Music Library	14E-109 253-5689
Mon-Fri 8:30-6		Mon-Thu 8:30-10	
Sat 11-6		Fri 8:30-7	
Sun 1-5		Sat 11-6	
		Sun 1-10	
Barker Engineering Library	10-500 253-5661	Reserve Book Room	14N-132 253-5675
Mon-Thu 8:30-11		Mon-Thu 8:30-11	
Fri 8:30-7		Fri 8:30-7	
Sat 11-6		Sat 11-6	
Sun 1-11		Sun 1-11	
Computerized Literature Search Service	14S-M48 253-7746	RetroSpective Collection	N57 253-7040
Mon-Fri 9-5		Mon-Fri 9-5	
Sat-Sun closed		Sat-Sun closed	
Dewey Library	E53-100 253-5677	Rotch Library	7-238 258-5590
Mon-Thu 8:30-11		Mon-Thu 8:30-10	
Fri 8:30-7		Fri 8:30-7	
Sat 11-6		Sat 11-6	
Sun 1-11		Sun 2-10	
Document Services	14-0551 253-5650	Rotch Visual Collections	7-304 253-7098
Mon-Fri 9-5		Mon-Fri 8:30-6	
Sat-Sun closed		Sat-Sun closed	
Humanities Library	14S-200 253-5683	Schering-Plough Library	E25-131 253-6366
Mon-Thu 8-12		Mon-Fri 9-6	
Fri-Sat 8-12*		Sat-Sun closed	
Sun noon-12			
Institute Archives and Special Collections	14N-118 253-5136	Science Library	14S-100 253-5685
Mon-Fri 9-5		Mon-Thu 8-12*	
Sat-Sun closed		Fri-Sat 8-12*	
		Sun noon-12	

Humanities and Science Libraries will be open 24 hours a day for members of the MIT community only one week before and during the final exam period.

SPECIAL SCHEDULES ARE POSTED FOR HOLIDAYS

* Circulation desk closes at 8 p.m.

図書館での研究・調査方法についての利用者教育などで、ツアーやセミナーは年間を通じて実施されています。これらサービスについての情報は、どのレファレンスデスクでも得ることができます。つまり、キャンパスネットワークでこれらのサービスが提供されていることになります。出来る限りたくさんのサービスや情報をワークステーションに提供することを図書館システムの目標としているということです。

また、学習面および身体面でハンディキャップを負った利用者へのサービスのために、ATIC(Access Technology for Information and Computing)と呼ばれるシステムが用意されています。MITの情報システムを利用するためのプログラムが設けられており、そのサービスの一部として、Braille typewriter、Visualtek maschine、Reading Edge Kurzweil reader等が備えられ問題があれば、支援スタッフへの連絡が取れるようです。

外部からの訪問者に対しては、その日限りの利用が認められているが、サービスはかなり限定されたものとなっているようです。

2-4. 図書館目録

図書館で生産してきた情報の主たるものは、目録情報でした。MITでは、大学の創設者の名前 (William Barton Rogers) を付けた BARTON というオンラインシステムが提供されています。このシステムは、MITすべての図書館システムとしてオンライン目録と資料の貸出・返却・予約および受入システムで構成されています。オンライン目録に蓄積されているデータは、1963年以降に受け入れられ、目録が作成されたものが対象で、それ以前のもはマイクロフィッシュで作成されており、"Dewey Decimal Catalog" と呼ばれています。主題・著者・書名からアクセスできるこの辞書体目録に収録されている資料は、RSC(RetroSpective Collection)：保存図書館に収蔵されています。

雑誌目録は、ボストン図書館組合 (Boston Library Consortium) の総合目録がマイクロフィッシュで提供されており、BLCに加わっている15の学術研究機関の所蔵雑誌約12万タイトルが相互に利用でき、BLCの事務局は、Boston Public Library に置かれており、インターネット上のゲートウェイがタフツ (Tufts) 大学に設けられています。アドレスは (telnet:TULIPS.LIB.TUFTS.EDU)。このコンソーシアムでは、この総合目録を基にしたUnCoverサービスも実施されているようで、FAXを使ったデリバリーサービスが提供されているとのこと。ただ、音楽関係、パンフレット、音響資料、写真、マニフスクリプト、文書類、テクニカルレポート、地図、政府刊行物類などは、前述してきた目録では検索できないようで、レファレンス担当者に相談するものとされています。

2-5. 電子的情報源とサービス

Online With Libraries(OWL)は、図書館の担当するネットワークを介したレファレンスサービスであり、各図書館のレファレンス担当が窓口となったATHENAのアカウント所持者が受けることのできるサービスです。BARTONも外部からのリモートアクセスが可能であるが、このOWLは、図書館サービス、施設、コレクションなどに関する情報や、学内の催し・出来事やそのディレクトリに関する (factual and directory) 情報、資料の

問い合わせに対する所在の確定 (Verification of bibliographic reference) などの情報を見つけるために効果的なサービスです。しかも、24時間運用されており、"Athena's zephyr message system" を使って質問者とレファレンス担当者が相互に応え合うシステムになっており、担当者がいない場合は後で、e-mailで回答されるシステムです。また、BookPageと呼ばれるデリバリーサービスがあり、MITのどのレファレンスデスクに申し込んでも、48時間以内に学内の所蔵する資料で貸出が可能であれば、その資料を配送してもらえということ。さらに、予約制度も設けられており、中央図書館のリザーブームにおいてサービスされているようでした。

WWWでのMIT図書館のホームページは、URLが <http://nimrod.mit.edu> であり、これから覗ける情報は、主題領域毎の情報源、ジャーナル、レファレンスコレクションおよび図書館の開館時間帯とサービスについての内容となっています。

さらに、MIT内のどのレファレンスデスクでも、いわゆるレファレンスサービス (印刷媒体あるいはオンラインのレファレンス情報源の使い方や、オンラインデータベースのクイックサーチ、調査・研究に有用な情報源やサービスの指導、クラスや個人に対するツアーなど) が実施されています。

図書館間貸出サービスは、MITに所蔵していない資料について、学内構成員が利用できるサービスであり、図書館毎に受付がなされています。他大学の図書館の利用については、前述したBLC(Boston Library Consortium)のメンバー館が利用でき、人文科学図書館 (Humanities Library) のレファレンスデスクでBLCカードが発行されており、これを持って行けば希望資料の利用ができるようでした。

また、OCLCの "Reciprocal Faculty Borrowing Program" (研究者間相互貸出プログラム) に参加している160の研究機関の中にMITも参加しており、オンラインでの検索と貸出サービスについてMITの教官層が利用できる。同じOCLCの First Searchは、ATHENAのアカウント所持者であれば誰でも利用可能で、ILLかドキュメントデリバリーかで文献の入手が可能でした。

CD-ROMデータベースは約60種類が提供されており、そのリストがインターネットで公開されており (<http://nimrod.mit.edu/>)

common/cdrom.html)、主題分野毎に各図書館でサービスされています。

オンラインで提供されているデータベースとしては、MEDLINE、Avery Index to Architectural Periodicals、Elsevier Materials Science Journalsがあり、ATHENAのワークステーションから利用できるように、Willowと呼ばれるインタフェースが作成・提供・頒布されており環境が整備されています。

2-6. MITの印象

これまでに書き連ねてきた印象を記して、MITの図書館情報サービス・システムの見学記のまとめとします。

第1は、サービスやシステムがコミュニティのものであるという点です。

第2は、ネットワークが有効に働いているという点です。

第3は、構成員に平等に提供できるサービスでありシステムであるという点です。

(参考文献)

1. Guide to MIT Libraries など
 2. Access Technology for Information and Computing at MIT
 3. MIT Bulletin, Graduate School Manual, Facts, Practical Planning Guide など
- @これらの文献は著者の手元にあります。
(続く、次回はUCLAの予定です。)

平成7年度 学術情報センター・セミナー参加報告

附属図書館洋書目録情報掛 忽那 一代

「こんな研修があるけれども、行ってみないか。」専門員から標記の研修についてお話を戴いたのが、暑い夏の盛りの頃でした。期間の長さ・密度の濃いカリキュラムに圧倒され、UNIXの使用経験もない我が身を振り返るほどに募りゆく不安で頭の中が一杯になった頃、研修決定通知が届き、暗澹たる思いで東京へと旅立つことになりました。

この研修は、センターの前身機関での実施を含め昭和47年度から昭和61年度まで開講されていた長期の研修(図書館情報学セミナー、文献情報センターセミナー等)を再開したものです。実施形態としては、中堅職員の研究の場として少数人数を対象とし、受講生が各自課題を自由に選択し、一定期間職場を離れて研究課題を遂行するという以前の研修の形をそのまま踏襲している様です。相違点としては、受講対象者に図書館職員以外に大型計算機センター等情報処理関連機関に勤務する

者を加えたこと、カリキュラムの大きな部分を占めるWS(ワークステーション)実習が目をはきまします。

再開第1回の7年度は、11月6日～12月22日、1月8日～3月15日の前後期を合わせて17週間の日程で実施されました。カリキュラムは、前期は1週間に2～3コマの教官による一般講義と主にWS実習で構成され、後期は全て個別研究に割り当てられていました。受講生は北海道・京都・鹿児島の大大学附属図書館から参加することとなった男性2名女性1名の計3名です。話してみれば同じような不安を抱えた年齢も環境も似通った3人であり、宿舍も同じということで長い研修を共に過ごすにあたり、何となくほっとしました。

研修期間を過ごす部屋として与えられた「セミナー員室」は研修課長室のすぐ隣にあり、大学の研究室程度の広さで、両壁際には机とロッカーが2組と1組に分かれて配置され

ていました。各自の机の上にはそれぞれX端末が1台ずつセットされていました。

初日のオリエンテーション後、早速選択課題について指導教官との簡単な打合わせの機会があり、初めて指導の宮澤先生と直接お話をすることになりました。そこで研究課題を進めていくにあたって「道具」の必要性を指摘されました。「道具」即ち「プログラム言語」、それが見るのも聞くのも初めての「Perl」でした。こうして研修開始早々「前期の内にPerlでプログラムを書くこと」という新たな課題が出されてしまい、前途多難の感を強くしました。

翌日からは一般講義と並行してWS実習が始まりました。講義は図書館をとりまく環境の急激な変化に関連した刺激的な内容のものが多く、最新の研究動向に触れることができた様に思います。たった3人の受講生を前に先生方が講義して下さるといふ勿体無いような環境でした。聴講後は各講義に関連して課題が与えられ、レポート作成が義務づけられています。また一週間ごとに週間報告の提出もあり、これらは全てWSで作成することになっています。こうして前期は殆ど講義レポートの作成でWS実習の時間が過ぎてしまい、課題研究も進まぬままWS実習というよりはエディタの実習に時間を割いていた様な気がします。悩みの種のPerlについては、入門書をお借りして主に宿舎で読み、センターでプログラムを実行するという形で何とか進めました。今振り返ってみても、この前期、特に最初の1～2週間程が最も辛い時期でした。

後期に入ると課題研究が中心となり、俄然忙しく且つおもしろくなりました。半分過ぎたという安心感もありましたが、やはり何物にも拘束されず時間を自由に使える、という状況は願ってもそう得られるものではありません。この頃には期間が残り少なくなるのを惜しむような気持ちで毎日を過ごすようになりました。ただ、課題研究が後期のこの2ヶ月に集中してしまった為に時間がとても足りず、3名共研修最終日の最後の瞬間まで端末に向かう者ありプリンタに走る者ありで、5ヶ月間を共にした別れを惜しむ時間もゆっくりとれなかったのが残念でした。

終わってみれば5ヶ月もあっという間で、一生に二度とない本当に贅沢な時間を過ごさせて戴いたという気がします。心残りを言えば、長期間東京に滞在していたわりには殆どの時

間を「セミナー員室」で過ごしてしまい、地の利を生かせきれなかったところでしょうか。これは研修内容がWSなしには殆ど成り立たない為、ある程度仕方ないことなのかも知れません。

生活面に関して最も気がかりだったのは、やはり健康管理でした。衣・食はともかく「住」についてはセンターに宿泊施設が無い為苦労しましたが、数年後には立派な施設も出来ると聞いています。研修の性格上、図書館員となって10年前後の方が対象になると思いますが、自己再教育の場として貴重な経験になることでしょう。

最後になりましたが、ご指導戴いたセンターの先生方、色々とお世話を戴いた研修課の皆様、課題に関してご協力戴いた全国の図書館職員の皆様、そして何よりも長期の研修に参加する機会を快く与えて下さった附属図書館の皆様にあらためて感謝の意を表します。

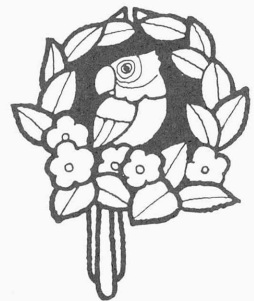
《研究課題について》

【課題】「目録システムと外字管理」

【概要】NACSIS-CATでそのまま入力することのできない外字・いわゆる「◆◆外字」について現在の入力状況を漢字を中心に調査した。また目録システム用文字セットとしてJISX0221-1995を導入した場合の影響を調査、さらには目録システムにおける外字管理について考察を行った。

【付表】「検出外字と大漢和・広漢和・JISX0221・JISX0208・JISX0212との対応・出現回数表」「JISX0221にない漢字一覧」「出版年代別・言語別書誌件数における外字を含む書誌件数の推移」等

*上記レポートは『平成7年度 学術情報センター・セミナー研究レポート』（1996年3月刊行）に収録。



図書館の動き(1)

附属図書館利用 オリエンテーション を開催

附属図書館では、4月から新しく京大にいられた新入生を対象に、下記のとおりオリエンテーションを開催しました。



開催日時と構成

(第1部) 附属図書館の利用案内

日時：4月15日(月)～17日(水)の3日間

各日 12:15～12:45と 15:00～15:30の2回

場所：附属図書館3階AVホール

内容：図書館案内のスライドを上映しながら、利用証・貸出・返却・予約・更新・カード目録等、基本的な図書館の利用方法について説明。最後に参加いただいた利用者の方々にアンケートを書いていただきました。参加者数は361名で、アンケート回答数は282名でした。回答内容は別記。

(第2部) OPAC検索説明会

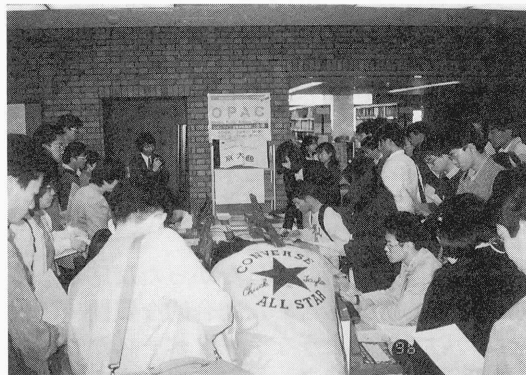
日時：4月24日(水)～26日(金)の3日間

各日 12:15～12:45 と 15:00～15:30 2回

場所：附属図書館1階カウンター前

内容：図書館職員による検索説明。参加者から数人の方に端末を操作していただき、検索方法を実習していただきました。

参加者数は443名でした。



アンケートから

第1部参加者に対するアンケートには、説明内容・スライド上映ともわかりやすかったというご意見が多数ありました。

開催時間は昨年と同様、1回は授業のないお昼休みにし、時間も1回30分に短縮して、なるべく授業や食事の時間に差し障りのないように計画いたしました。

しかし、開催の時期が入学式直後であったこともあり、授業やいろいろな手続きで忙しい時期と重なり、やはり参加しにくいという方もあったようです。次回以後も、開催時期や時間、内容等さらに検討を加えて、より多くの方に参加していただけるようにしていきたいと思っています。(参考調査掛)

[利用者のための NACSIS-IR講習会] を開催

6月11日と12日の両日、附属図書館4階地域共同利用室を主会場に、大学院生および教官を対象とした「利用者のためのNACSIS-IR講習会」を開催。参加者は、教官6名(教授2、助教授2、助手2)、大学院生等24名(博士課程13、修士課程10、研修員1)でした。

2時間30分のプログラムで3回実施し各回

図書館の動き(2)

の受講者は10名、講師は慈道参考調査掛長が「検索の実施・コマンド等」を、四方システム管理掛主任が「接続の方法」を担当、館内掛員が実習補助にあたりました。

検索実習の時間には、各自が持参した思いの検索課題を手で端末に向かい、検索結果についても多くの受講者が「探していた情報が判明した」ようです。

また前回(1年前)にはなかった反応として、他の電子的媒体も含めた総合的な質問(〇〇学についてどのようなデータベースが存在するか?)や、インターネットに関する質問などが次々と寄せられました。

さらに今回はe-mailでも参加を受け付けましたところ、複数の問い合わせがありました。これらのことから、データベース全般への関心の高まりや、京大内の情報環境が徐々に整備されていることが窺えます。

今回の、予想を上回る好評を受けて、附属図書館では今後も、各種の研究者向け講習会を企画し、実施する予定です。設備的にも、研修用としても使用できる、telnet接続できる端末を備えた部屋が整備され、このような講習会にも活用できるようになる予定です。

(参考調査掛)

洋図書遡及入力作業報告(平成7年)

附属図書館では、本年始めより洋図書の遡及入力作業を進めてまいりましたが、このたびその作業を終了いたしました。今回の作業は、本学において昭和61年度以降受け入れた洋図書のうち、未入力分を対象に行いました。入力件数は外注分および職員による入力分とを合わせて約4万4千冊です。(内訳は表のとおり)

入力作業には、附属図書館内設置の全学総合目録カードを使用いたしました関係上、期間中は所蔵検索において一部ご不便をおかけしました。皆様のご協力に厚くお礼申し上げます。

本学図書館および図書室では、今後もあらゆる機会をとらえて、遡及入力を推進して行きたいと考えております。ご理解ご協力くださいますようお願いいたします。

(洋書目録情報掛)

学部名	件数
附属図書館	1,340
総合人間学部	4,837
文学部	11,406
法学部	3,486
経済学部	10,296
医学部	1,816
薬学部	403
農学部	627
防災研究所	2,786
木質科学研究所	216
原子エネルギー研究所	550
人文科学研究所	426
基礎物理学研究所	1,016
経済研究所	4,444
原子炉実験所	592
合 計	44,241

インターネットを利用してみませんか

附属図書館では、利用者のみなさんにインターネットを介した情報収集を体験していただくこと、5月27日より2階ロビーラウンジに、4台のパソコンを用意しました。

まだ、試験的な運用の段階ですので、使えるのは、WWW(World Wide Web)ナビゲーターのみで、使用時間も9時から5時までに限らせていただいています。

運用早々大変好評で、いつも4台全部が使われているという状態です。あなたも一度触ってみて、インターネットで情報の世界を旅してみたいはいかがでしょうか。

どなたでもご自由にご利用ください。

(電子図書館ワーキンググループ)

図書館の動き(3)

鈴鹿本「今昔物語集」展示会のお知らせ

附属図書館所蔵の鈴鹿本「今昔物語集」(以下「今昔物語集」)の国宝指定を記念して、今年度附属図書館秋季展示会は「今昔物語集」を中心に開催することになりました。

「今昔物語集」は平成3年(1991)10月8日に、京都市在住の鈴鹿家当主・鈴鹿紀氏より、当館に寄贈されたものです。その後3カ年にわたって修補を行い、平成7年(1995)6月15日に重要文化財に指定されていましたが、平成8年(1996)6月27日、文化財保護法(昭和25年法律第214号)第27条第2項の規定により、国宝に指定されました。

「今昔物語集」については、京都大学文学部の安田章教授による解説「鈴鹿本今昔物語集をめぐる」が「静脩」Vol.28, No. 3 (1991)に収録されています。

展示会では附属図書館所蔵の重要文化財指定図書も同時に展示いたします。

また、会期中に講演会も予定しています。展示会および講演会の概要は以下のとおりです。

展示会

名称：「今昔物語集」への招待

— 鈴鹿本「今昔物語集」国宝指定記念—

同時展示：重要文化財指定図書

会期：平成8年11月11日(月)～17日(日)

10:00～16:00(入場は15:30まで)

会場：附属図書館展示ホール(3階)

講演会

演題：『今昔物語集』の〈構造〉と歴史学

講師：西山良平 助教授

(京都大学総合人間学部)

日時：平成8年11月15日(金) 13:30～15:00

会場：附属図書館AVホール(3階)

いずれも一般公開、入場無料です。

なお、インターネットによる電子版「今昔物語集」と電子展示も準備しています。

(雑誌・特殊資料掛)

「論文・レポートのための文献収集講座」を開催

附属図書館では、下記の日程で、学部生を対象とした中級オリエンテーション「論文・レポートのための文献収集講座」を開催しました。レポート・卒論を準備する上で、図書館を使ってどのように資料を探したらいいのか、京大にない資料を入手するにはどのようにしたらいいのか、等について説明し、多くの方に参加していただきました。

期間：10月

7日(月)・8日(火) … 1週目

14日(月)・15日(火)・16日(水) … 2週目

時間：1週目 12:10～12:55

2週目 15:00～15:45

場所：附属図書館3階 AVホール

(参考調査掛)

図書館の動き(4)

新入生・新院生利用証交付状況（平成6・7・8年）

附属図書館では、毎年4月から新入生に対して利用証を交付していますが、最近3年間の4～7月の交付人数及び交付率は次のとおりです。

学部生

	文	教育	法	経済	理	医	薬	工	農	総人	医短	合計
6年数	210	63	387	223	304	96	77	1020	308	132	143	2963
率(%)	94.6	100	94.9	2.5	93.3	94.1	90.6	96.1	91.9	98.5	89.3	94.2
7年数	218	65	395	237	310	92	79	982	283	130	139	2930
率(%)	96.9	100	96.3	95.6	95.1	90.2	91.9	92.6	87.1	97.7	88	93.8
8年数	203	64	384	233	311	87	76	980	290	129	145	2902
率(%)	90.6	100	94.1	92.8	94.8	85.3	91.6	92.7	90.6	94.9	90.1	92.5

院（修士）

	文	教育	法	経済	理	薬	工	農	人環	エネ	合計
6年数	84	15	60	53	196	20	507	110	116		1161
率(%)	93.3	78.9	88.2	93	76	31.3	71.2	53.1	95.1		68
7年数	93	30	70	57	193	47	576	95	110		1271
率(%)	97.9	90.9	95.9	98.3	70.7	77	76	44.4	89.4		74.1
8年数	105	29	63	62	192	34	537	118	109	86	1335
率(%)	95.5	100	94.1	91.2	66.7	53.1	71.2	50.2	89.3	80.4	79.2

院（博士）

	文	教育	法	経済	理	医	薬	工	農	人環	エネ	合計
7年数	52	9	16	26	77	30	17	91	36	62		416
率(%)	85.2	81.8	88.9	86.7	47.8	21	73.9	66.4	34.6	76.5		60.3
8年数	56	14	20	27	82	27	4	97	37	65	9	438
率(%)	84.8	87.5	100	61.4	43.2	16.6	16	73.5	35.2	72.2	40.9	57.4

<注> 1. 交付率は、構成員数に対する交付人数の割合である。

2. 博士課程の一斉交付は平成7年度から始まった。

3. 平成8年度に、独立大学院としてエネルギー科学研究科が新設された。

毎年7月末の時点で学部生については9割以上に交付していますが、院生は全般的にやや交付率が低いようです。院生の場合、理科系は文科系に対して交付率がかなり低い傾向が見られます。これは、附属図書館の所蔵資料の性格、地理的な問題等によるものと思われます。

平成6年度以前の博士課程進学者を除く全新入生の交付は、附属図書館インフォメーションカウンターで行っています。新入生以外の方の在籍期限延長等による再発行、教職員・聴講生等の方の新規発行も随時申請を受け付けています。どうぞインフォメーションカウンターにお越し下さい。

なお、薬学部・医療短期大学部図書室には、4月からの交付に際しお世話になりました。

あらためてお礼を申し上げます。

（資料運用掛）

電子図書館に向けて・・・

附属図書館のホームページを試験公開しました

OPACも検索できます（一部分）

京都大学附属図書館のホームページが公開されているのをご存知ですか。

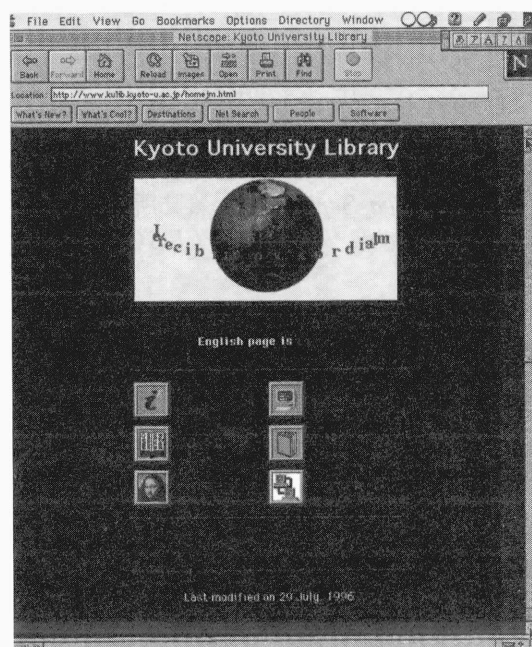
本年1月より附属図書館のホームページが公開され、インターネットから接続して見ることができるようになっています。

附属図書館の利用案内、OPAC（蔵書検索）、図書館報「静脩」、図書館所蔵の「国女歌舞妓絵詞」の電子展示、蔵経書院本の目録等を見ることができます。

ただし、OPACは現在のところ試験運用中で、附属図書館と総合人間学部図書館所蔵の単行本で目録データベースに入力されている

図書館の動き(5)

京都大学附属図書館ホームページ



もの約10万件に限って検索することができます。現在、約60万件の目録データについて検索可能とすべく準備中です。

また、このホームページから京都大学内外の様々な機関（海外にも）のホームページにも移れ、様々な情報を見にゆくこともできます。

研究室や自宅のパソコンから、あるいは附属図書館内のパソコン（2階ロビーラウンジに4台設置）から、接続し利用してみてください。（電子図書館ワーキンググループ）

URL <http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp>

CD-ROMネットワークサーバシステムに GeoRef(地質学文献情報)を追加

上記CD-ROMデータベースの吉田地区および宇治地区へのネットワーク提供を5月から開始しました(詳しくは本号2-5頁「GeoRefのネットワーク利用について」をご覧ください)。

【利用法】

申請

・附属図書館⑦カウンター(参考調査)・理学部中央図書室・総合人間学部図書館および防研究所図書室に備えてある「利用申請願」を、附属図書館参考調査掛まで学内便等で提出してください(申請時には電子メールアドレスをお知らせください)。折り返し電子メールで、接続先IPアドレス、利用のためのuserIDおよびパスワードを通知いたします。

検索ソフト

・専用検索ソフト(Macintosh用, Windows用など)は, KUINSのanonymous ftpなどにより入手してインストールしてください。なおtelnetによる利用(検索ソフト不要)もできます。

附属図書館からの利用

・学部生の方など利用登録者以外の方も、附属図書館1階の専用クライアント(医学情報MEDLINEと兼用)で検索できます。

(参考調査掛)

"access.txt—文献調査・利用ガイド (beta version)"を刊行

学部学生の皆さんのために、図書館の活用方法について紹介した冊子「access.txt—文献調査・利用ガイド」(beta version)を刊行しました。

第一部「文献の探索・発見・入手」では、京大での図書・雑誌の探し方について、OPAC端末、目録カード、などの使用法を説明しています。

第二部「様々な学術情報へのアクセス」では、論文等を探す情報源(文献目録、CD-ROMなど)について紹介しています。

実際にレファレンスデスクであった質問の紹介、参考調査・相互利用の各窓口のサービス案内も収録しています。論文・レポート作成などの際、活用してください。

学部生の希望者には⑦カウンターで配布しております。関心のある方はお申し出ください。

(参考調査掛)



■ 附属図書館1Fで利用できるCD-ROM



【海外ソフト】

- ・ *Boston Spa Books* (英国図書館(BL)DSC所蔵：図書目録)
- ・ *Boston Spa Conferences* (同：会議録目録)
- ・ *Boston Spa Serials* (同：雑誌所蔵目録)
- ・ *Global Books in Print PLUS* (英語圏の出版物情報)
- ・ *Bibliographie Nationale Française* (フランス国立図書館蔵書目録。1970年以降)
- ・ *Deutsche Nationalbibliographie Actuel* (ドイツ全国書誌。1989年以降)
- ・ *Dissertation Abstracts Ondisc* (海外学位論文情報。米国は1861年以降)
- ・ *Ulrich's PLUS* (世界の逐次刊行物書誌)
- ・ *Oxford English Dictionary (2nd Edition)*
- ・ *Biography & Genealogy Master Index* (海外人名辞典のメタ情報)

【国内ソフト】

- ・ NDL CD-LINE 雑誌記事索引(1990年以降)
- ・ 学術雑誌総合目録(1990年時点)
- ・ 国文学研究資料館蔵マイクロ資料目録(1988年時点)
- ・ 判例MASTER(戦後の民事判例情報)
- ・ CD-HIASK(1993-1995)朝日新聞記事情報
- ・ CD-ASAX(1945-1995)戦後50年朝日新聞見出しデータベース
- ・ 季刊書誌ナビ(国内図書・雑誌・新聞の刊行情報など)

● 利用は平日9:00～閉館15分前までです(※一部、使用時にソフトの入れ替えを伴うものについては17:00までです)。

CD-ROMソフトに関するご質問は⑦カウンター(参考調査)までお願いします。

(参考調査掛)

資料利用案内

全国共同利用図書資料 (大型コレクション)の利用案内について

このたび下記大学図書館より、平成7年度全国共同利用資料(大型コレクション)について利用案内が送付されてきましたので、お知らせいたします。

なお、内容明細につきましては、附属図書館1階参考コーナーにリストがありますのでメインカウンター7番でお尋ねの上、ご参照下さい。

—記—

香川大学附属図書館

「*Le Monde. Years 1944-1994 : Microfilm Edition*」

滋賀大学附属図書館

「16-20世紀ゲリッチェン女性史研究文献集成(*The Gerritsen Collection of Women's History, 1543-1945*)」

兵庫教育大学附属図書館

「15-20世紀西欧教育史貴重資料大集成

(*History of Education : 15th — 20th Century Microfiche ed.*)」

奈良教育大学附属図書館

「*The Works of Geoffrey Chaucer, edited by F.S.Ellis. Printed by William Morris (Kelmscott press) 1896*」

茨城大学附属図書館

「バイルシュタイン有機化学ハンドブック第2増補版(*Beilsteins Handbuch der Organischen Chemie*)」*内容明細あり

秋田大学附属図書館

「18世紀シェイクスピアコレクション」
*内容明細あり
「無機化合物大事典(*Dictionary of Inorganic Compounds.*)」

高知大学附属図書館

「*CA 12th collective Index on CD-ROM, CA 12th collective abstracts on CD-ROM*」

横浜国立大学附属図書館

「ランドルト-ベルンシュタイン物理数値データ集 グループ1-7 (Landolt-Börnstein, Numerical Data and Functional Relationships in Science and Technology. New Series. Group I-VII)」

信州大学附属図書館

「太平洋戦争白書全50巻 (The United States Strategic Bombing Survey (Pacific))」
「ランドルト-ベルンシュタイン物理数値データ集 グループ2, 4 (Landolt-Börnstein, Numerical Data and Functional Relationships in Science and Technology. New Series. Group II, IV)」

教官寄贈資料紹介

(平成8年4-7月)

朝尾直弘 (文・名誉教授)
豊臣秀吉 (上) (下) '96

荒木幹雄 (農・教授・退官)
近代農史論争—経営・社会・女性—'96

稲垣耕作 (工・助教授)
コンピュータ科学の基礎 '96

井村裕夫 (総長)
ビデオ生涯教育講座 全51巻 '96

上山春平 (人文・名誉教授)
上山春平著作集 第1巻 哲学の方法 '96

梅棹忠夫 (人文・名誉教授)
梅棹忠夫著作集 全22巻別巻

大田伊久雄 (農・助手)
森林経済学とその政策への応用 '96

奥田昌道 (法・名誉教授)
財産管理権論序説(復刻版) 於保不二雄著

紀平英作 (文・教授)
アメリカの歴史:
「新大陸」の近代と激動の現代 '96

清水 茂 (文・名誉教授)
水滸伝 第6、7、8巻 '96

新宮秀夫 (工・教授)
鑄鉄の知られざる世界 '96

長尾 眞 (工・教授)
岩波講座ソフトウェア科学 15
自然言語処理 '96
日本書籍総目録 '95
電子図書館時代へ向けての大規模図書館
の未来像 電子図書館研究会専門部会 '96

中野一新 (経・教授)
三浦通信No. 3 田中家文書調査会編 '96

藤原悌三 (防研・教授)
平成7年度兵庫県南部地震の被害調査に基づいた実証的分析による被害の検証 '96
同上 資料編 兵庫県域における合同微動力観測 '96
平成7年度文部省科学研究費(総合研究A)研究成果報告書(課題番号07300005)

四日谷敬子 (総人・教授)
ハイデッガーの思惟と芸術 '96
無底と根底 ペーメ神秘主義主要著作集 '91

渡辺弘之 (農・教授)
熱帯農学 渡辺弘之 [ほか] 編 '96

教育学部
1995年度自己点検評価報告書: 研究・教育・管理—個別点検と反省—'96
研究報告集 [1-1] 子どもたちの生活時間と日常生活 沖縄の子どもたちの日常生活と生活技能 '89
研究報告集 [1-2] 中学生の生活時間と日常生活 '90
研究報告集 2 子どもたちの生活時間と日常生活 '96
論文題目一覧 '95

農学部亜熱帯植物実験所
大島植物目録 1、2 '95

人文科学研究所
明末清初の社会と文化 小野和子編 '96
京都大学人文科学研究所研究報告 '96
注釈漂荒紀事 飛鳥井雅道, 齋藤希史編
田中峰雄文庫目録 '96

📖 遺伝子実験施設

京都大学遺伝子実験施設研究報告書 '96

📖 医療技術短期大学部

二十周年記念誌 '96

創立二十周年記念健康科学講演集 '96

📖 京都大学学術出版会

中国佛教石經の研究 氣賀澤保規編 '96

中國書史 石川九楊著 '96

図書館日誌

[平成8年4～9月]

4月

- 5日 リニューアルオープン記念式
- 15日 新入生利用証交付開始
- 15日 新入生オリエンテーション
(第1部)(17日まで)
- 18日 電子図書館WG(第1回)
- 24日 近畿地区国立大学図書館協議会
近畿地区国公立大学図書館協議会
企画委員会
- 24日 新入生オリエンテーション
(第2部)(26日まで)
- 25日 次期システムWG全体会議
(第1回)

5月

- 9日 附属図書館研究開発室会議
(第1回)
- 27日 マルチメディア端末クラスター
2階にて試行運用開始(4台)
- 28日 国立大学図書館事務部課長会議
- 29日 国立大学図書館協議会常務理事会
- 30日 国立大学図書館協議会理事会
次期システムWG全体会議
(第2回)

6月

- 5日 次期システム全学検討会議
(第1回)
- 6日 ILLシステム学内講習会
(7日まで)
- 11日 利用者のためのNACSIS—
IR学内講習会(12日まで)
- 14日 近畿地区国立大学図書館協議会
総会
- 21日 附属図書館商議会
(平成8年度第1回)

選書分担商議員会議

自然科学系選書分担商議員会議

- 26日 次期システム全学検討会議
(第2回)
- 次期システムWG全体会議
(第3回)

7月

- 1日 会計検査院実地検査(5日まで)
目録担当職員システム研修(学内)
(4日まで)
- 外国雑誌センター館会議
(東京工業大学)
- 3日 国立大学図書館協議会総会
(4日まで)
- 10日 国公立大学図書館協力委員会
- 16日 ILL専門委員会(大阪大学)
- 18日 近畿地区著作権セミナー
- 24日 附属図書館研究開発室会議
(第2回)

8月

- 5日 図書移動作業のため休館
(9日まで)
- 29日 ホームページ作成講座(館内)
(30日まで)

9月

- 3日 図書館業務用電子計算機システム
仕様策定委員会(第1回)
- 13日 附属図書館商議会
(平成8年度第2回)
- 選書分担商議員会議

目 次

巻頭言

- ・ 転換期を迎えた大学図書館
(井村裕夫総長)

頁

1

報告・レポート

- ・ GeoRefのネットワーク利用について
(慈道佐代子) 2
- ・ アメリカの大学図書館訪問記－1
マサチューセッツ工科大学 (片山淳) 5
- ・ 平成7年度学術情報センター・セミナー
参加報告 (忽那一代) 9

図書館の動き

- ・ 附属図書館利用オリエンテーションを開催 1 1
- ・ 利用者のためのNACSIS-IR講習会を開催 1 1
- ・ 洋図書選及入力作業報告 (平成7年) 1 2
- ・ インターネットを利用してみませんか 1 2
- ・ 鈴鹿本「今昔物語集」展示会の
お知らせ 1 3

- ・ 「論文・レポートのための文献収集講座」
を開催 1 3
- ・ 新入生・新院生利用証交付状況
(平成6・7・8年) 1 4
- ・ 電子図書館に向けて・・附属図書館のホー
ムページを試験公開しました 1 4
- ・ CD-ROMネットワークサーバシステムに
GeoRef (地質学文献情報) を追加 1 5
- ・ "access.txt－文献調査・利用ガイド
(beta version)" を刊行 1 5
- ・ 附属図書館1Fで利用できるCD-ROM 1 6

資料利用案内

- ・ 全国共同利用図書資料 (大型コレクション)
の利用案内 1 6
- ・ 教官寄贈資料紹介 (平成8年4-7月) 1 7

図書館日誌

1 8

平成7年度蔵書統計：入力件数

2 0

* 前号記事の訂正のお願い

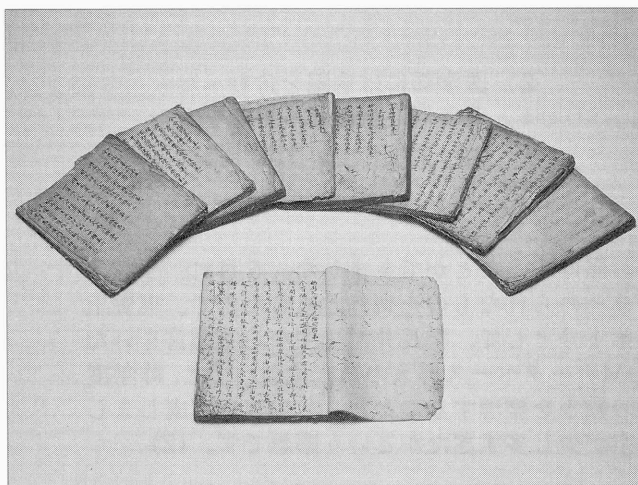
前号の利用統計 (ILLサービスの文献複写受付件数) のデータに誤りがありました。

以下のように訂正をお願いします。

受付

受付先	国立大学		公私立大学		その他の機関		合計	
	受付	謝絶	受付	謝絶	受付	謝絶	受付	謝絶
文献複写 受付数 (NC-ILL)	7,726	2,480	3,126	551	1,306	204	12,158	3,325
	(7,036)	(2,476)	(1,482)	(270)	(69)	(0)	(8,587)	(2,746)

(編集部)



京都大学附属図書館報「静脩」

Vol.33, No.1 (通巻123号)

発行：1996年10月

編集：静脩編集委員会

(責任者：附属図書館事務部長)

刊行者：京都大学附属図書館

〒606-01 京都市左京区吉田本町

Tel.075-753-2613

平成 7 年度蔵書統計（入力件数） （平成 8 年 3 月 3 1 日現在）

	受入冊数		蔵書冊数		入力件数	
	和書	洋書	和書	洋書	和書	洋書
附属図書館	5,527	1,764	508,729	256,300	116,930	36,938
総合人間学部	4,783	3,085	300,080	258,786	25,384	52,722
文学部	6,057	7,056	458,621	303,588	5,027	33,543
教育学部	2,024	1,345	68,725	53,145	20,496	14,180
法学部	3,678	5,340	232,411	314,121	20,526	28,084
経済学部	3,409	2,565	208,685	202,947	8,870	15,140
理学部	652	1,526	44,868	197,448	8,446	17,077
医学部	792	1,858	45,932	128,949	2,757	3,454
薬学部	237	506	11,062	28,777	1,696	1,195
工学部	1,744	4,692	135,082	250,144	15,899	25,615
農学部	1,605	1,181	163,473	139,277	10,710	5,873
農学部演習林	181	134	9,832	2,937	1,625	547
化学研究所(宇治五研)	110	1,190	28,832	86,216	1,437	9,477
人文科学研究所	4,787	2,282	416,202	65,838	9,705	11,205
胸部疾患研究所	0	216	1,611	4,961	43	157
基礎物理学研究所	52	918	7,826	68,615	636	8,753
ウイルス研究所	0	96	484	9,744	113	872
経済研究所	523	666	38,624	31,626	846	7,613
数理解析研究所	42	673	6,223	66,410	3,564	19,201
原子炉実験所	0	135	13,742	30,013	642	1,324
霊長類研究所	81	389	5,415	11,556	2,105	1,354
東南アジア研究センター	876	4,067	17,501	60,239	5,445	14,260
大型計算機センター	460	473	5,454	10,261	1,887	3,569
アフリカ地域研究資料センター	274	867	3,994	9,348	1,990	6,473
その他研究所・センター	531	573	6,774	13,110	718	2,601
医療技術短期大学部	317	63	22,643	5,332	2,392	1,286
人間環境研究科	534	1,077	2,526	6,980	2,028	5,249
合 計	39,276	44,736	2,765,351	2,616,667	271,923	327,794
和洋合計	84,013		5,382,019		599,717	

注) 1. 数字は平成8年4月1日現在のもの
3. 農学部には農場を含む

2. 医学部には病院を含む
4. 蔵書冊数には製本雑誌を含む

〔編集後記〕

平成 8 年度第 1 号の館報を、ようやくお届けすることができました。5 月に、平成 7 年度 1 年間の図書館の動きを長尾館長がまとめられたものを刊行しましたので、実質上は本年 2 号目です。今号は、新しい巻の第 1 号として、総長井村先生から巻頭言をいただきました。報告として、新しい CD-ROM データベース導入の顚末についてと、昨年度末までの二つの研修、4 月以降の図書館の動きを整理することとし、内容を構成しました。慣れない編集子の慣れない作業で文字が少し多すぎたかという感想です。(Z)